



海外留学体験記

大学

自分を表現することの大切さを学んだアメリカ留学

文学部英語英米文化学科3年
磯部 仁美さん



私は8ヶ月間、アメリカのワシントン州スポケーンに留学していました。最初の3ヶ月はゴンザガ大学で、英語で授業を受けるのに必要な語学力をつけるためのESL (English for Second Language) の授業を受けました。

ゴンザガ大学で英語力を高めた後、ウィットワース大学に移りました。私は国際関係の授業を受講したのですが、最初は先生の話が聞き取れないし、毎日たくさんの宿題が出るのでとにかく大変！毎日図書館に缶詰になって勉強していました。でも、現地で友達になった多くの学生と互いに教え合いながら一緒に勉強をするようになると、良く理解できるようになり、積極的に授業に取り組みました。勉強

以外では、アジア出身の学生と親しくなれたことが良かったです。アジアに対するそれまでの一面的な見方が払拭され、アジアの国々をもっと知りたいと思うようになりました。

ウィットワース大学では勉強がとても忙しかったのですが、各国の文化を紹介するワールドパーティーがあり、日本人学生でダンスを踊りました。このダンスをタレントショーでも披露したら1位を取り、なんと賞金250ドルをGetしました！また、あまり観光もできませんでしたが、感謝祭の休みを使ってシアトルに行きました。フレンドシップファミリーと一緒に行ったのですが、ホームシックにならないようにと日本食レストラン

で食事をするなど気を遣っていたことは本当に感謝しています。シアトルでは「イチロー」という寿司メニューもあったほどイチロー人気すごかったのが印象に残っています。

8ヶ月のアメリカ留学で学んだことは、意思表示の大切さです。自分から積極的に行動すれば悩みも乗り越えられます。黙っていても、何も解決しないのです。さらに、苦しくても勉強を重ねて両大学の課程を修了できたことで、最後までやり遂げる力を身につけることができました。

今後は、英語力を落とさないように努力しながら、通訳や旅行関係など外国と関われる仕事に就く夢を実現したいと考えています。



ゴンザガESLのクラスメイトと

寮でのサヨナラパーティー



ルームメイトの家族と日本食レストランで



感謝祭の夕食会



タレントショーで1位